

新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画 令和元年度上半期取組状況

8月末現在

資料2

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	行動計画											
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①令和元年度重点取り組み項目(具体)	②令和元年度取組状況(R1.8.1現在)	達成度(上半期)	③令和元年度下半期の取り組み(予定)	④問題点等	⑦備考その他	令和2年度	
1. 常設展示の再構築	琵琶湖の魅力を発信し、現在とつながる展示空間	交流や対話が生まれる賑わいのある展示室地域の人々と創りあげる展示	各展示室リニューアル		第1期整備(C・水族)		第3期実施設計(A・B)	第3期工事(A・B)	4月に起工・入札公告、5月に仮契約締結、6月議会の議決を得て本契約締結し、着工	・4月2日 起工(上申) ・4月22日 入札公告 ・5月16日 入札開札 ・5月23日 仮契約締結 ・7月2日 本契約締結(6月議会で可決)、着工	40%	工事進捗管理(年度末出来高:30%)	特になし		第3期整備(A・B)	
			研究成果に基づく常設展示の構築と新しい交流空間での学びの提供	常設展示・交流空間の更新	研究成果に基づいたC・水族展示室の展示作成	交流空間(第2期)への研究成果の反映方法の検討	交流空間の整備	研究成果に基づいたA・B展示室の再構築	最新の研究成果を元に、展示資料準備、造作物製作、グラフィックや解説パネル等の原稿を執筆	研究成果を盛り込みながら、順次展示物の製作を行っている	45%	引き続き展示物製作を行う	特になし		研究成果に基づいたA・B展示室の展示作成	
			資料の活用		蓄積した生物標本の活用 新規飼育生物飼育開始	交流空間(第2期)用資料準備	交流空間(第2期)資料設置 資料検索システム設置 AB展示室用資料準備	AB展示室用資料準備	展示予定資料の情報整理、登録準備および展示準備	展示計画に沿った資料情報の整備、整理計画	20%	登録情報の整備・整理、一部登録		準備中の主な資料 ・松原内湖遺跡出土木製品(B) ・大津市北比良の生産用具(B) ・琵琶湖湖底堆積物標本(A) ・滋賀県田上山産鉱物標本(A)	AB展示室資料設置	
			運営体制の確立		運営体制の検証	運営体制の修正	運営体制の改善	運営体制検討	展示交流員の配置増の検討、展示交流員の館内の連絡手段の改善、交流スポットでの来館者との交流	展示交流員の配置増の検討、PHSを各ポストに配布、交流スポットは例年冬場に活用	50%	引き続き展示交流員の配置増について検討、PHSが配布されていない2ポストに配布	特になし			
2. 交流空間・交流機能の再構築	見える・伝わる・広がる交流空間・交流機能	おとなも楽しめる仕掛け・プログラムを充実 展示室や交流空間で来館者に見える交流をする 見える・伝わる・広がる参加と交流	おとなのディスカバリー		第2期実施設計	第2期工事	第2期整備	完了								
			おとなのディスカバリー ディスカバリールーム わくわく体験スペース レストラン・ショップ			運営体制検討	運営体制の検証	おとなのディスカバリーのオープンラボでの実演、交流	オープンラボの利用60件、びわ博フェスにおいて交流を計画・実行	50%	びわ博フェスで、はしかけによるオープンラボでの実演、交流の促進	特になし		運営体制の修正		
			樹冠トレイル		第2期実施設計	第2期工事	第2期整備	完了	ガイドブックの検証	樹冠トレイル&屋外展示ガイドブックの販売、はしかけ森人による樹冠トレイルガイドを1回実施、森人に夜おとなのディスカバリーを利用した交流活動の実施1回	80%	ガイドブックを活用した交流活動の充実、ガイドツアーの充実			修正版作成	
			学校・一般団体向けの屋内昼食場所	団体用屋内昼食スペース	第2期実施設計	第2期工事	第2期整備/運用開始	完了								
			博物館の活動に参加しやすい仕組みづくり	はしかけ制度の充実	担当学芸職員を増やしグループを多様化	学芸職員の6割以上	学芸職員の7割以上	学芸職員の8割以上	担当学芸職員を増やしグループを多様化	担当学芸職員を増やしグループを多様化	平成27年度18グループだったのが、令和元年度26グループになった					はしかけ制度の見直し
			フィールドレポーター制度の新展開	ICTを活用したレポート機会の充実でレポーターのスキル向上	地域情報システムの設置(C展示室)	地域情報システムを活かしたレポート体制の構築	ウェブの地図情報の活用により、精密な調査結果を作成									
学校向けのプログラムの充実	教員用ガイドツールの作成		教員用ガイド2種(試作版)を作成	試作版ガイドの提供と検証	2期リニューアル成果を反映したガイドを作成	教員用ガイド2版の検証・改善	展示ガイド検証と試用	教員研修会で活用方法の提案と試用を実施	80%	教員用ガイドの検証・改善	特になし		2版の改善と3期リニューアルの反映			
	新体験プログラム開発		生き物コレクションをテーマにしたプログラムの開発	生き物コレクションプログラムの検証・改善	おとなのディスカバリーに即したプログラムの開発	おとなのディスカバリーに即したプログラムの検証	県内小学生を対象に活動内容を検証したが、学校団体での利用には適していないことから屋外展示を利用した低学年向けプログラム開発に移行	屋外展示を利用した低学年向けのプログラムの開発	50%	屋外展示利用のプログラムを実施・検証	特になし		3期リニューアルの新展示に即したプログラムの開発			

新琵琶湖博物館創 造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応 じて記入)	行動計画											
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①令和元年度 重点取り組み項目(具体)	②令和元年度取組状況 (R1.8.1現在)	達成度 (上半期)	③令和元年度下半期 の取り組み(予定)	④問題点等	⑦備考 その他	令和2年度	
		地域での実践を担う「人が育つ」 博物館へと進化	「人が育つ」カリキュラ ムの開発と実践	体系的な講座・ ワークショップ/ 館外の人を含む 実行委員会	方針検討	講座・ワークショップ のカリキュラム・運営 方法決定	連続講座・ワー クショップ開催	館外の人を講師とする講 義・ワークショップの導入 (目標:1/2以上)	研究部と交流係が連携し て、リニューアルするA展 示室に関連した内容を高 校以上の参加者にわかり やすく解説する新琵琶湖 学セミナーを開催	2020年の1月～3月までに3 回行うセミナーの各テーマ と講演者を決定	50%	来年度に向けた計画 の策定。	特になし		館外の人を講師と する講義・ワー クショップの導入(目 標:3/4以上)	
			地域で活動する人の 情報交換の場づくり	課題別交流会 の運営ノウハウ 確立	ピオトーブ運営者の 交流会 (1年目:課題の共有)	ピオトーブ運営者の 交流会 (2年目:抽出した課 題の解決方法を共 有)	ピオトーブ運営者の 交流会 (3年目:共有した解 決方法の実践結果 の報告)	ピオトーブ運営者の交流会 (4年目:成果まとめと発 信)	学習プログラム開発をテ マとしたワークショップの開 催、その成果を各所属に 持ち帰って、新たな学習 プログラム開発	ピオトーブ運営者と協議 し、今年度末に、学習 プログラム開発をテーマ としたワークショップの開 催	50%	実施に向けた最終調 整と参加者の募集	特になし		新たな課題の交流 会を設置	
			ウェブサイト「エコロ し〜が」の改良			利用状況と使い勝手 調査	調査結果の分析と改 良	エコロし〜が改良案の作 成	ウェブサイト再構築に向け た業者打ち合わせと見積 作成	業者との打ち合わせを行 い、再構築のための見積 を作成	50%	令和2年に実施するた めの設計の完成	特になし			ウェブサイト再構築
3. 利用者の利便性・ 快適 性を高める施設 整備	ICTの活用	来館者が快適で楽しく情報を得 られるシステムの整備	デジタルサイネージ		設置			完了								
			多言語音声展示ガイ ド		ガイド整備		第2期分コンテンツ追 加		第2期分まで完了							第3期分コンテ ンツ変更
			無料公衆Wi-Fi整備		図書室に整備				完了							
	ユニバーサルデザ インの推進	誰でも容易に理解できる表示 パネル	誰でも安心して利用できる博物 館	高齢者や福祉団体の 休憩室整備		第2期実施設計	第2期工事	第2期整備(完成)	完了							
わかりやすい館内サイ ン/多言語対応/ 読みやすい解説パネ ル					第1期整備 第2期実施設計	第2期工事	第2期整備 第3期実施設計	第3期工事	4月に起工・入札公告、5 月に仮契約締結、6月議 会の議決を得て本契約締 結し、着工	・4月2日 起工(上申) ・4月22日 入札公告 ・5月16日 入札開札 ・5月23日 仮契約締結 ・7月2日 本契約締結(6 月議会で可決)、着工	40%	工事進捗管理 (年度末出来高:30%)	特になし	第3期整備		
サイン・パネルの検 証			サイン・パネルの修 正	サイン・パネルの検 討	サイン・パネルの作 成	駐車場から博物館への案 内サインの設置			50%	サインの効果を検証	特になし			グランドオープン 後のサイン・パ ネルの検証		
利用者が参加する使い勝手 の検証				UD検討委員会	UD検討委員会	UD検討委員会	UD検討委員会	第3期工事の本契約締結 後、UD評価を開催する。	第3期工事の本契約締結 (7/2)	0%	第3期工事の進捗によ り適切な時期にUD評 価を開催する。(1回)	特になし		第3期整備		
4. 多様な主体との 連携	地域との連携	地域の多様な主体との協同	地域と博物館の共同 事業の検討および宣 伝		検討の開始	検討結果のまとめ	共同事業の事例集を 収集	共同事業のアイデア集を 館内で共有	事例の追加募集	収集した事例が5件、さら に追加を募集	30%	事例の追加募集 館内での共有	公開できる事 例が予想以上 に集まらない。		共同事業のアイ デア集まとめ	
			学校との連携	学校による博物館利用の推進	地域を研究する中学 生・高校生の交流会		博物館内での検討 開始	学校教員とともに検 討会をつくる	交流会の立ち上げ 交流会の開催	年2回以上の交流会・ワー クショップの開催	交流会・ワークショップの 開催	はしかけ梁山泊の活動の 支援	50%	交流会・ワーク ショップの開催 (11月～1月頃 に1回)	個別の活動は 堅調であり、交 流会は年1回 くらいで十分で ある。	交流会・ワー クショップの開 催 琵琶湖博物館を 活用した中高生 の活動の活性化
	関係団体との連携	琵琶湖環境研究推進 機構への参加	琵琶湖環境研究推進 機構への参加			「在来魚類のにぎ わい復活に向けた 研究」最終年度	新「在来魚類のに ぎわい復活に向け た研究(第二期)」 参加	新「在来魚類のに ぎわい復活に向け た研究(第二期)」 参加	「在来魚類のにぎ わい復活に向け た研究(第二期)」 最終年度	他の研究機関と連携を 図りながら、研究を 行う	継続して野外調査を 実施した	50%	野外調査の結果を まとめていく	特になし		
			環境問題解決のため試験研究 機関や行政との連携を強化			「外来魚駆除に関 わる研究」最終年度	「外来水生植物駆 除に関わる研究」 参加	「外来水生植物駆 除に関わる研究」 参加	「外来水生植物駆 除に関わる研究」 参加	他の研究プロジェクト と連携しながら、担 当学芸員を中心に 研究を進める	継続して野外調査を 実施し、行政による 対策事業の具体的 内容の立案に協力 した	50%	対策事業が駆除 中心から管理中 心となることを 見据え、対策事 業の方向付けに 資する調査を 実施する	特になし		
			琵琶湖再生法関連研 究			南湖の沈水植物に 関する研究(琵琶 湖・琵琶湖研)	南湖の沈水植物に 関する研究(琵琶 湖・琵琶湖研・ 県立大)	南湖の沈水植物に 関する研究(琵琶 湖・琵琶湖研・ 県立大)	南湖の沈水植物に 関する研究(琵琶 湖・琵琶湖研・ 県立大)	南湖の沈水植物に 関する研究(琵琶 湖・琵琶湖研・ 県立大)	南湖の沈水植物の 継続研究調査を 行う	定期的な観測を行 った	60%	後半も引き続き 観測を行い、今 年度のデータを まとめる	特になし	
			その他の連携			ILEC30周年記念 展の実施 試験研究機関連 絡会議	NORNAC滋賀県 大会開催 試験研究機関連 絡会議	試験研究機関連 絡会議	試験研究機関連 絡会議	10月の発表会に 参加し、博物館 から1件報告す る	発表者を選出し、 発表内容も確定 した	70%	長浜バイオド ームで口頭発表 を行う	特になし		
			他の博物館・美術館 と連携し発信力を 強化	共同イベントによる 博物館の役割の アピール		佐川美術館との 共同イベント	ICOM京都大会の 準備、 県博協35周年 記念事業	ICOM京都大会の 準備	ICOM京都大会	9月の本会議に 向けてエクス カーションの 準備	京都大会に 参加 9月にエクス カーションを 実施	70%	ー	特になし		
近隣施設と連携し 地域の活性化と 集客増	イベントの共同 開催や広報にお ける協力	鳥丸半島活 性化協議会への 参加	イベントチラシ 作成、スタンプ ラリーの実施	チラシ作成、 共同イベントの 企画・検討	共同イベントの 実施 (リニューアルイ ベント等との 共同実施)	チラシ作成、 共同イベントの 企画・検討	ウォーキング マップの作成、 スタンプラリー の実施	ウォーキング マップを作成 中、下期にお けるスタンプラ リーの準備	30%	ウォーキング マップの設置 スタンプラ リーの実施	特になし		共同イベントの 実施(リニュー アルイベント 等との共同 実施)			

新琵琶湖博物館創 造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応 じて記入)	行動計画										
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①令和元年度 重点取り組み項目(具体)	②令和元年度取組状況 (R1.8.1現在)	達成度 (上半期)	③令和元年度下半期 の取り組み(予定)	④問題点等	⑦備考 その他	令和2年度
6. 資料を利用しやす い博物館への進化 と飼育生物の計画的 繁殖	資料検索機能充実	写真資料の継続的保存と公開 の促進	大橋コレクションの作 成と公開		大橋コレクションの整 理			大橋コレクションの整理完 了	公開画像の選択・DBへ の仮登録	はしかけグループ:温故写 新によって公開画像の選 択作業中 データベースへの仮登録 作業中	50%	引き続き作業	特になし		大橋コレクションの 活用開始
		クラウド型資料データベースへ 移行		汎用システム移 行でセキュリティ と発信力を向上	移行準備(仕様確 定)	システム移行	ウェブ上の收藏品 データ公開ページの 再構築と公開	完了							今後は未公開分 野の資料DBの 構築、データ整 備、公開を目指 す。
		図書総合情報システムへの移 行		全国共通図書 館データベース に参加	移行準備(仕様確 定)	図書管理システム の導入	OPAC導入・情報 の一般公開	図書目録所在サー ビスに参加	図書目録所在サー ビスに登録 データの公開	図書目録サー ビスに登録 データを順次登 録中	80%	引き続き、デー タの登録作業	特になし		
	飼育生物の計画的 な繁殖	新たな飼育生物の飼育技術 の確立	バイカルアザラシの 繁殖	発情周期を把握 し、飼育管理を 調整	バイカルアザラシ の安定的飼育体 制確立	バイカルアザラシ の発情周期の確 認	発情周期コント ールのための水 温調整	前年度を反映し た水温調整およ び発情周期コン ロール	昨年度の未達成 事項である水温 調整実施	計画通りの水温 調整実施 雌雄とも正常な 発情周期を確 認	100%	引き続き水温調 整を行いながら 、日照時間の 検討	特になし		バイカルアザラシ の繁殖
			カヤネズミの繁殖 管理	管理計画を策 定し、過剰な繁 殖を抑制し健全 な個体数を維持	防疫体制の確 立・カヤネズミ の繁殖	繁殖管理計画の 策定	繁殖制限開始	計画的繁殖開始	合計40匹を目標 に繁殖(ペア リング)を実施	4月、6月にペ アリングを開始 。	50%	引き続き、必要 な数に合わせて 繁殖(ペアリン グ)を実施	4月、6月のペ アはまだ子ども が生まれていな い。9月にも1 ペア増やして 様子を見る。		計画的繁殖の維持
		日本産希少淡水魚 の継続的な飼育	個体数減少種の 入手と遺伝的な 多様性の確保	他の施設との 連携を強化し、 資料交換や共同 飼育	資料提供協力機 関と入手が必要 な種のリスタ 化	ネコギギの飼育 繁殖事業に参 加	ネコギギ以外の 入手必要種の 優先順位確定	交渉開始・順次 入手	最優先種(ヒナ モロコ)の入手 他施設との連 携強化	次年度以降の 繁殖に必要な 個体を入手 分譲、共同飼 育にて相手方 施設で繁殖を 確認	100%	なし	特になし		入手の継続
7. 「湖と人間」の 関係を考える研究 の推進	琵琶湖の価値の 発見につながる研 究強化	琵琶湖地域の「湖 と人間」の関係 変遷を探る総合 的な研究の推進	専門、共同、総 合研究や外部資 金を組み合わせた 研究	(総合研究の課 題) 琵琶湖地域の 自然および自然 観の通時的変 遷に関する研究 (総合研究の課 題) 過去から現在 までの琵琶湖 水系の自然と 人の暮らしの変 遷に関する研 究	研究報告会での 中間報告	研究成果の整理	成果をまとめた 本の編集	成果をまとめた 本の発行とリ ニューアル展示 への反映	研究成果をまと めた研究調査 報告書を編集 、発行する	一つ目の報告 書原稿はほぼ 完成し、関係 する地元の方 々に確認を依 頼している	80%	確認が取れた 次第、編集と 発行に向けた 準備を行う	特になし	B展示リニュー アルに反映	
		琵琶湖の価値の 発見につながる研 究強化	協力連携機関と の共同研究①古 代湖	バイカル博物 館(ロシア)、オ フリド水生生物 研究所(マケド ニア)との連携	20周年記念シ ンポジウムおよ び特別研究セ ミナーの開催	共同研究に向け た情報交換と プロジェクト の検討	共同研究の申 請	共同研究の開始	今後の連携に 向けて、共同 研究の申請を 行うとともに 、具体的な連 携について検 討を行う	オフリド水生 生物研究所と の共同研究に ついて、科 研費国際共同 研究加速基金 に申請を行った	70%	バイカル湖博 物館に10月に 訪問し、今後 の連携について 検討を行う	特になし	共同研究の展 開	
		琵琶湖の価値の 発見につながる研 究強化	「古代湖」として の琵琶湖の価値 を探る比較研究 ・湖や固有種の 成立・人の暮らし と生物の営み	協力連携機関 との共同研究② 東アジアにお ける琵琶湖淀 川水系	水生生物研究 所・湖南省博物 館(中国)、洛 東江生物資源 館(韓国)との 連携	洛東江生物資 源館との合同 セミナーの実 施	洛東江生物資 源館との協力 協定締結、研 究情報や資料 交換等の検討	研究情報や資 料交換実施	日中韓の研究 成果の発表交 流	洛東江生物資 源館で行われ る合同セミナー に参加し、発 表を行う	5月に訪問し 、合同セミナー で発表を行った	80%	来年度の合同 セミナーや共 同研究について 、具体的な連 携の検討を行 う	特になし	研究成果の展 示の検討
	研究成果の発信 力強化	一般向けへの 発信	インターネット での発信	研究成果に基づ く情報ページを 開設				コンテンツ構成 案を作成	コンテンツ作成	具体的なコン 텐츠を作成す る	研究者の個人 ページの作成 の検討、電子 図鑑の作成に ついて検討を 行った	30%	必要な内容 について、準 備を進める	特になし	ページ作成と 公開
			刊行物による 発信	『琵琶湖博物 館』を冠した一 般書籍の発行	出版準備(契約 等)と1~3巻 刊行	4~6巻刊行 と講演会の開 催	年2~3巻の 刊行	年2~3巻の 刊行	年度内に2~ 3巻の刊行を 目指す	原稿はほぼ完 成し、編集を 待っている	60%	10~11巻の 刊行を目指す	特になし	子ども向け の読み物を 検討	